

令和4年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立 栄和小学校)

学校番号 029

【様式】

目指す学校像	児童が自立して学び、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて行動できるよう教職員、保護者、地域の方が全力で支援する学校(児童が通って良かった、保護者が通わせて良かった、地域の方があって良かった、教職員が勤めて良かったと思える学校)
--------	--

重点目標	1 学びの自律と個別最適化、そして探究化による資質・能力の育成 2 子どもが安心して教育活動のできる安全な教育環境づくり 3 創立50周年記念事業を中心とした開かれた学校づくり、CSとSSNの一体的な推進によるスクールコミュニティの実現 4 一人ひとりの多様な幸せ(Well-Being)を大切にする教育が実践できる環境づくり
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価						学校運営協議会による評価		
年 度 目 標				年 度 評 価				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語・算数ともにほぼ全国・県平均値であるが、記述式による問題において、全国・県平均を下回る結果となった。 ○国語は「言語についての知識・理解」は向上している。 ○算数は「好きか?」「よくわかるか?」の質問に対し肯定的な回答が少なかった。図形の領域、短答式の問題形式は正答率が低い。 (課題) ○アンケートで学習に対して肯定的な回答をする児童は多いが、主体的な学びに係る回答は低めなことから、主体的に取り組むためのさらなる改善が課題である。 ○記述式に関する力が平均を下回る結果から、言葉で適切に表現する児童の育成が求められる。	・教育DXで実現させる授業展開「教える」から児童が「学ぶ」自律した学習者への育成 ・学校課題研修の充実や高学年教科担任制の効果的な実施	①ICTを有効に活用し、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、指導の個別化、学びの個別化を行う。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、データの利活用等の中で、自ら学習状況を把握できるようにする。	①学校評価で該当項目に肯定的な回答を増やす。 ②児童が自己採点の結果を基に、自らの学習状況をつかみ、目標を立て達成に向けて行動できるようになったか。	①学校評価の「授業がわかりやすい」項目では昨年度と同様、肯定的な回答85%、「よい授業」アンケートの「先生は授業でテレビやパソコンなどを使って授業をしてくれている」の回答は3.3ポイントとなった。 ②学校評価の「自分から進んで学習に取り組んでいるか」の回答では、昨年度より4ポイント上昇して89%肯定的な回答が得られた。	B	①教師が提示するためのICT機器の指導方法は充実してきていると捉えているが、個別に学ぶためのICT機器の活用について、家庭とも連携を図り、成果を上げていきたい。 ②自主的な学習を促すために、PTAとも連携を図り、「家庭学習検討委員会」でさらに自主的な学習が促進されるよう体制をつくる。	・「授業がわかりやすい」という回答が85%で素晴らしい。 ・家庭学習が連携して取り組めるようになることよい。 ・家庭も巻き込んで課題に向き合えるよう取り組んでいけるとよい。 ・自分の思いを記述式や話し合い活動を充実させることで、さらに自分の意見がもてるよう取り組んでいってもらいたい。
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において「学校に行くのが楽しい」の質問項目で肯定的な回答をした児童は、全国・県平均を上回った。 ○教職員による安全点検を実施して、危険箇所等は早期発見できている。 ○コロナ禍で行事や遊びに制限がかかり、体力テストの握力以外が全国・県平均を下回る結果となりケガの増加が見られる。(一人で転倒してしまう、転んだ時に手につけない等) (課題) ○緊急度2以上に該当する児童が、複数いる状態であるため、積極的な生徒指導と、教育相談の早期対応が必要である。 ○体力低下によるケガの増加がみられるため、休み時間の外遊びの確保、体育活動時の運動量の確保、ケガ予防の児童の意識向上を図る必要がある。	・全児童がWell-Beingと思える学校づくり ・安全点検の組織的な対応と適切な予算執行	①生徒指導主任を中心に、月1回のいじめのアンケートや心と生活のアンケート等を行い、児童のサインに気づき、早期対応ができる体制づくりを行う。 ②With コロナでも、できる行事を見直し、児童が体験的な活動を通して、学校に通いたいと思えるようにする。	①教職員は、組織的に報・連・相・見届けを実施することで、即日対応する。 ②50周年記念事業等を実施する。感染症対策を行い、必要な行事を実施できるようにする。	①生徒指導主任を中心に、設問3に該当する児童は、保護者と連携を図り、即日対応を行った。本人・保護者への丁寧な対応を行い、学校生活指導員に見守り等も依頼する等、再発防止を行った。必要に応じて、スクールローヤーによる特別講義を高学年全学年級で実施し、いじめの予防に努めた。 ②学区内のサイデン化学アリーナを借りて、保護者2名と全学年が一堂に集まり、50周年記念フェスティバルを実施することができた。	B	①引きつづき、地域・家庭・関係機関と連携を図り、早期対応を組織的に行っていく。 ②With コロナから、アフターコロナでの行事の見直しを図っていき、さらに、地域に開かれた学校教育を行う。	・スクールローヤー等、関係機関の活用をして対応していることは素晴らしい。 ・ゲームがすべて悪いわけではないが、子どもたちのゲームやSNS等の中では、大人からやり取りが見えないため、いじめや悪いことをしていないか、保護者としては不安を感じる。ICT機器の扱い方も家庭を巻き込んで一緒にできるとよい。 ・子どもたちが外に出て、人と関わりをもてるように、地域での遊ぶ場所やイベントを企画していきたい。PTAまつりなど、学校とも連携を図りたい。
3	(現状) ○昨年度、学校運営協議会準備委員会を立ち上げ、委員に趣旨を説明し、「栄和小の児童につけさせたい力」について熟議をした。 ○学校運営協議会とスクールサポートネットワークでの役割の確認と確認した。 (課題) ○今年度は昨年度の熟議の中で共有した「つけさせ力」を地域・家庭等にも広め具体的に実施できるとよい。 ○コロナ禍で制限があり、学校公開や参観の機会が少なかったため、児童の様子を家庭や地域の方々に見ていただく機会を多く設けることが必要である。	・目指す児童像を地域・家庭に共有するための教育活動の積極的な公開 ・地域とともにある学校づくりと学校を核とした地域づくりの推進	①学校運営協議会を年3回実施して、熟議を重ね、その具体策を実現に向けて計画実施する。 ②50周年記念行事や年5回の授業参観を家庭に公開することで、積極的な情報発信をする。	①学校運営協議会の熟議で出た具体策について実現できたか。 ②学校評価で該当項目の質問について肯定的な回答を向上させる。	①学校運営協議会を3回開催し、熟議では、「あいさつができる」「読書活動を推進する」に重点置いて活動をすすめるよう確認した。読書活動では、図書委員・司書を中心に読書キャンペーンを実施した。 ②学校評価「学校は教育活動を保護者や地域に進んで公開していますか」の回答で91%肯定的な回答が得られた。(昨年度は項目なし)	B	①「あいさつ」については保護者・教職員等はあいさつができていない項目が高いが、児童は「あまりできていない」と捉えていた。児童にできていない部分については、褒めるなどして意味づけしていきたい。読書活動も家庭と連携して推進していく。 ②アフターコロナで、学校を安全に地域に公開していく。	・CS実施1年目で学校と年3回、話し合いの機会をもてたことは大変良かった。2年目以降はここで話し合ったことを具現化していけるとよい。 ・登下校の見守りの安全はSSNに参加いただいている方が、よくやってくれている。保護者もその一員となって子どもたちの安全を見守る意識がもてるようになることよい。
4	(現状) ○研修主任とエバンジェリストを中心に、ICTを活用した授業実践は全教職員が実践している。 ○学校課題研修で国語科の授業実践と「人権教育」について研究発表をして、教職員の資質向上が図ることができた。 (課題) ○オンライン授業など新型コロナに対しての変化する授業形態に対応するのに精一杯で、授業内容の改善まではなかなか実施できていない教職員が多い。教職員が授業準備、成績処理をするための、さらなる時間の確保が必要。 ○児童が主体的に学ぶためのさらなるICT活用(思考をまとめる・発表する・個別に学びを深める)について研修ができるとよい。	・一人ひとりが力を発揮できるWell-Beingな環境づくり	①始業時間を早め、放課後の時間を確保する等の、適切な業務改善をすることで、教職員が本来すべき業務に時間が使えるようにする。 ②毎週木曜日に研修の時間を設け、国語・算数の授業実践を行ったり、指導者を招聘した、各学年の研修授業を実施したりする。 ③ICT支援員の活用や、エバンジェリストを中心に、主体的に学べるICT活用事例について紹介する。データの利活用や、ICT活用で個別最適化された学びの実現を研修する。(年3回)	①授業準備等の時間が確保できるよう業務改善をはかり、教職員がゆとりをもつことができたか。 ②毎週木曜日の研修の時間を確保するとともに、国語・算数の講師をそれぞれ招聘し、講演会や研究授業等を適切に実施したか。 ③学校課題研修の中で、ICT活用事例について研修を深められたか。	①運営委員会や職員会議等に日課票の見直しを行い、業間休みと清掃時間を5分ずつ短縮し、下校時間を10分早める日課を作成し全家庭に早めに周知した。 ②国語・算数の指導者を招聘し、講演1回と指導案検討6回、研究授業3回実施。指導助言を活かし、個別最適化された学びについて教職員のスキルアップを図った。 ③情報主任・エバンジェリストによる「スタディサプリ」の活用研修を2学期実施。	B	①新しく見直した日課を令和5年度から完全実施して、教職員のゆとりを図る。 ②基礎学力の定着の学校課題研修を行うとともに、教育相談関係、特別支援教育関係、ICT関係の研修も今年度より多く実施していく。 ③データの利活用について、研修を深めるとともに、家庭におけるICT活用について、講師等を招聘し、保護者にも使用方法を伝えていき、さらに活用の幅を広げたい。	・若手教職員が多い中で、研修会を充実させることはとても重要である。 ・学習教材のデジタル化だけではなく、ICTを活用することで、自主的な学びができるようになると思うので、本日のICTの利便性を教えていってもらいたい。

学校運営協議会による評価

実施日令和5年2月17日

学校運営協議会からの意見・要望・評価等